

日本建築学会大会 2025

アジアから考えるグリーン・デザイン

会場：アクロス福岡
地下2階イベントホール（900席）
福岡市中央区天神1丁目1番1号

日時：2025年9月10日(水) 14:00-15:45

14:00-15:00 リチャード・ハッセル講演会

15:00-15:45 トークセッション

※レクチャーは英語および日本語への同時通訳で行います。

※同日16:00-18:00に、同会場にて

「レム・コールハース講演会」が開催されます。

参加：一般公開(無料)

右記QRコードよりご登録が必要です。

<https://lecture-wr.peatix.com>



近代建築運動が始まって100年以上経つが、産業革命と資本主義経済の発展は今も続いている。その間に人口やCO2排出が急増し、気候変動が深刻化、建築や都市計画もその影響を無視できない。地球温暖化の影響により亜熱帯化しつつある日本の現状も含め、アジア全体の視点から環境を捉えることが必要であろう。自然をコントロールし、領域を拡張してきたヨーロッパ的な近代化に対して、自然を敬い自然と共存してきたアジアの文化や価値観を参考にすると、近代とは異なる可能性が見えてくるのではないかと。本シンポジウムでは、シンガポールを拠点に高層ビルの立面緑化や自然との共生を図る都市デザインなど、気候変動や都市化などの課題に取り組むWOHAからRichard Hassell氏をお迎えし、次の時代の建築や都市についてお話いただく。



Richard Hassell

WOHAの共同ディレクター。

1989年西オーストラリア大学を卒業、2002年RMIT大学（メルボルン）にて建築修士号を取得。これまで多くの大学で講演を行い、現在は西オーストラリア大学の客員教授を務める。シドニーのニューサウスウェールズ大学では「セイドラー・チェア（建築実務担当教授職）」に任命。さらに、シンガポール陸上交通庁（LTA）の建築デザインレビュー委員会の委員長も務める。

WOHAは、身体的スケールで繋がっていくような環境マトリクスを作り出すことを理念としており、コミュニティの形成、自然保護、バイオフィリックデザイン、生態系の活性化、そして都市のレジリエンスの構築などを目指している。



主催：日本建築学会九州支部 広報協力：九州大学BeCAT
日本建築学会大会2025(九州)：<https://taikai2025.aij.or.jp>
九州大学BeCAT：<https://becat.kyushu-u.ac.jp>

 一般社団法人
日本建築学会九州支部

 **BeCAT** Built Environment
Center with
Art & Technology